

会 議 録

会議の名称	第19期東村山市社会教育委員会議（第14回）				
開催日時	平成24年9月26日（水）午後7時～9時				
開催場所	東村山市役所いきいきプラザ4階 教育委員会室				
出席者 及び欠席者	<p>●出席者：</p> <p>（委員） 吉井四郎議長・土田士朗副議長・宗像宏中委員・伊藤二葉委員・小山栄子委員・島崎喜美子委員・吉満洋子委員・桑原純委員・當間昭治委員・杉本みさ子委員</p> <p>（市事務局） 神山正樹社会教育課長・齋藤文彦社会教育課生涯学習係長・野崎美里社会教育課生涯学習係主任</p> <p>●欠席者： なし</p> <p>（委員）</p> <p>（市事務局）</p>				
傍聴の可否	傍聴可能	傍聴不可の場合はその理由	/	傍聴者数	2名
会議次第	<p>1. あいさつ</p> <p>2. 報告事項</p> <p>（1）東京都市町村社会教育委員連絡協議会 第4ブロック研修会の打合せ会議について</p> <p>3. 協議事項</p> <p>（1）（仮称）生涯学習計画への意見反映</p> <p>3. その他</p> <p>（1）第16回会議日程について</p>				
問い合わせ先	<p>教育部社会教育課生涯学習係</p> <p>担当者名 齋藤・野崎</p> <p>電話番号 042-393-5111（内線3513）</p> <p>ファックス番号 042-397-5431</p>				
会 議 経 過					
<p>1. あいさつ</p> <p>● 議長、社会教育課長よりあいさつ</p> <p>2. 報告事項</p> <p>（1）東京都市町村社会教育委員連絡協議会（以下、「都市社連協」という） 第4ブロック研修会の打合せ会議について</p> <p>（議長）9月21日（金）、今年度都市社連協第4ブロック幹事市である小平市で開催され、当市からは議長と事務局が出席した。会議では、研修本番に先立ち、要項の確認を中心に行った。今回の研修では、「防災への取り組みと地域・学校との関わりについて（仮）」というテーマで、市内小学校の取り組みの紹介、講演会を実施する予定である。</p> <p>（事務局）出席を予定されている方は、当日の13時10分に市役所バス停前に集合していただきたい。</p>					

3. 協議事項

(1) (仮称)生涯学習計画への意見反映

(事務局) 先日、ふるさと歴史館協議会及び文化財保護審議会にも(仮称)生涯学習計画への意見反映を依頼した。また、議会の所管事務調査委員会にも提示し、議員よりご意見をいただく予定である。

(議長) 今回、高齢者が地域で活動できる事業の推進について、皆さまからのご意見を伺いたい。高齢者が今後増加していく傾向に対して、様々な解決の糸口が考えられるが、社会教育の視点から、高齢者が長年培ってきた知識や経験を地域に還元していただくため、市が何らかの支援策を講じることが必要になってくると思う。

(A委員) 当市の実例として、高齢者による児童の登下校の見守り活動がある。リタイア後も元気に活動できる方が子どもと触れ合うことで、いきいきとした表情をしており、生きがいを感じているようである。また、子どもたちも高齢者から多くのことを学べるというメリットもある。また、高齢者による学校での語り部活動も好評である。高齢者の活動には、学校と地域との連携が不可欠だと思う。

(B委員) 子どもの学校外活動の推進にも関わるが、当市放課後子ども教室に関しても60歳代、70歳代の方が安全管理員として児童の見守り活動に携わっている。多くの方は、市報のスタッフ募集記事を見て申込をされるが、市報で募集するだけでなく、多くの方が気軽に児童の見守りを体験できる態勢づくりが必要だと思う。今後ますます高齢者を受け入れる社会が必要とされていると思う。

(議長) 市内で活動するサークル等の会員募集や催し物の紹介記事が市報に掲載されているが、扱いが小さいため、宣伝効果がどのくらいあるのか疑問である。インターネットで検索すると、高齢者が活動できるサークルが市内に数多く存在しているのがわかるが、パソコンを使わない人もいるので、市報の掲載スペースが少ないと高齢者が情報を得ることが難しいと思う。サークル紹介の特集記事を設けても良いのではないか。

(C委員) 特集記事を組むことで、関心を持つ人が増え、サークル同士でもつながりができるのではないか。

(D委員) 介護を必要としている方もいるので、一概に「高齢者」という括り方は難しいのではないか。高齢者が人の役に立てるようになるには心身の健康が不可欠である。近年は核家族が増え、子どもが高齢者と接する機会が少なくなっているため、行政のバックアップにより、子どもが高齢者と接する機会を増やしたらよいのではないか。戦争などの体験談を子どもたちに語り継いでいただければ、教育にも貢献できると思う。異世代が交わるような環境作りをしていかなければ、高齢者が孤立してしまうと思う。

(E委員) 小学校では高齢者による体験談を教育の一環として積極的に採り入れている傾向があるが、中学校には高齢者と交わる機会が少ないと思う。たとえば、高齢者と交わるプログラムが組まれていたとしても、プログラムが終了すると、交わりが途絶えてしまう傾向がある。

(A委員) かつて、市教育研究会の中に特別活動部会があり、「孫制度」が好評だった。いのちの教育にもつながることであり。児童の保護者からも望む声が多い。また、現在も行われている、小学生と高齢者との文通(敬老の日作文)は高齢者の体験を児童に広めるには効果があると思うが、児童の書いた手紙や作文に対して返信を下さるのが一部の高齢者に限られ、学校でもどのように児童に返すべきか悩むところである。

(F委員) 高齢者が集える場として市内に「憩いの家」が数か所設置されている。

趣味的なものに関しては自発的に行動を起こせるが、ボランティアや仕事の情報に関しては、窓口が必要である。高齢者の中にはパソコンの扱いに慣れていない人もいて、自分でインターネット検索をするのが難しい場合があるので、広報誌など紙ベースの情報媒体の充実が不可欠ではないか。

(議長) 子どもたちは高齢者をどのように思っているのか。

(B委員) 子どもたちは高齢者と好意的に接している。また、接した子どもたちに成長の色が見られる。市では「生涯学習人材バンク」事業が実施されているが、登録要件として、専門的な知識や技術を必要としているので、それとは別に、専門的な技術を特に必要とせず、「何かの役に立ちたい」という意欲を持っている人の登録を募る「ボランティアバンク」のような制度があっても良いと思う。

(議長) 高齢者の子どもを見守る意欲を活かすのは大事だが、見守るためのノウハウが時代の流れに乗って変わってきていると思うので、ある程度の知識を得た上で、活動できるようなシステムの構築が必要か。自治体によっては、子育てに関わる高齢者のための講座「イクジイスクール」を実施している。

(G委員) 高齢者の場合、「子どもに何かあってはいけない」という意識が強く、子どもに対して過干渉になってしまう傾向がある。最近の子どもや保護者の持つ感覚との整合性を図る必要があると思う。また、近年、社会問題となっている児童虐待を防止するためにも高齢者の見守りが必要だと思う。

(H委員) 高齢者の概念は幅広いので、一概に言えないが、活躍している場はたくさんある。但し、活動意欲はあっても、実行に踏み込めない人もいるので、そのような人に手を差し伸べる体制が必要だと思う。近年、部活動指導を民間会社に委託している学校もあるが、高齢者にボランティアで指導を依頼するのも一手ではないか。教員の負担軽減にもなる。先を見据えてテーマを体系化することも不可欠ではないか。

(B委員) 「きょういく東村山」でもボランティア特集を組んだらよいのではないか。教育現場が多くのボランティアに支えられている現状をもっと多くの方に知っていただきたいと思う。

(議長) 皆さまのご意見を基にテーマを体系化していただきたい。そして、テーマが集約された段階で、適宜振り返りも行っていきたいと思う。

4. その他

- 第16回会議日程について ⇒ 平成24年11月22日(木) 午後7時から